



「Catch Ball キャッチボール」

～地域に開かれた農場を目指して～

住 所 : 〒014-0054 大仙市大曲金谷町 26-9
 電話番号 : 0187-63-2257・Fax 0187-62-3434(大嶋農場:Fax 兼用 0187-68-2381)
 U R L : <http://www.daino-h.akita-pref.ed.jp>
 *農場だよりに関するお問い合わせ農場経営部までご連絡下さい。

◆農場長（高橋寿徳先生）より

「縁の下の力持ちに感動して」

大農米の出荷も一段落。稲刈り、粃すり、出荷とよく頑張りました。そうした中、学校農場の実習以外に大農生の優しさと底力を感じることができました。

大仙市の四ツ屋小学校と花館小学校が「特別栽培米（大曲花火米）」を栽培し、ブータン国王に送られるのは新聞やテレビを通じて知っているかと思います。その縁の下で頑張っていたのが大農生であることを知っていますか。小学生が田植えをしたあとの手直しや補植、稲刈りの束ね方やはさ掛け、子どもたちが怪我をしないようにと昔ながらの足踏み脱穀の補助。本校生徒が縁の下の力持ちとして頑張ってくれました。小学生への思いやりの心はもちろんですが、農家のお父さん方の笑顔が印象的でした。

「地域に元気と笑顔の灯りをともす大農生の力」スゴイと思いました。



「大農産米あきたこまち東京で大人気 ～手踊り・なまはげ！お客さんに大人気」

10月19日稲作部と郷土芸能部の5名が「食の未来づくりフェスタ2013」（東京都）に参加。大農産米あきたこまちを販売した。郷土芸能部は“おばこ姿”で秋田民謡の手踊り。稲作部員は“なまはげ”に扮し会場を魅了した。大農産米あきたこまちは瞬く間に完売。大農生の頑張りが東京都民をくぎ付けにした。



花 卉 部 門 （担当者：小松万里子先生、山代和也先生）

草花部門では2年生の草花選択の生徒と花卉部の1年生で、花卉栽培農家へ見学に行きました。1回目は大仙市太田でリンドウを栽培している高橋さんのところへ、2回目は横手市平鹿でシクラメンを栽培している新山さんのところへ伺いました。お二人ともお若い農業経営者で生徒達も普段とは違う勉強をさせて頂く事ができました。



水 田 部 門 （担当者：藤井亨先生、高橋寿徳先生、富樫久雄先生、佐藤農先生）

稲刈りが無事終了しました。生徒の皆さんの頑張りのもあり、近年稀に見る豊作となりました。ありがとうございました。今年度から取り組んでいる「大曲花火米」については、粒が大きく食味も上々の出来だったため「全国農業高校お米甲子園」（宮城県）と「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」（山形県）に応募しました。良い結果を期待しています。

野菜部門 (担当者：古戸毅先生、小松清高先生、佐々木鶴善先生)

先日、野菜部の活動の一環として部員は外国人(ナタリーさんを含む大仙市在住のALT)と英語によるコミュニケーションを通して秋野菜の栽培をしました。写真はその模様です。内容は有機石灰の散布による土壌中和で始まり、施肥、うね立て、マルチング張り、ダイコンの播種、ブロッコリー・ハクサイ・キャベツ苗の定植、灌水、そして最後は防鳥網張りで終わりました。ALTの方々は自ら"黒船"と名乗り、部員と共に作業を一つ一ついねいに行ってくれました。部員も英語で自己紹介や感想を述べてくれました。皆さんお疲れ様でした。来月、みんなで収穫する予定です。さて、どんな料理をつくりましょうか。



うね立て



マルチング張り



ハクサイの定植



キャベツの定植



部員と黒船軍団

食品加工部門 (担当者：伊藤寿人先生、三嶋登忍先生)

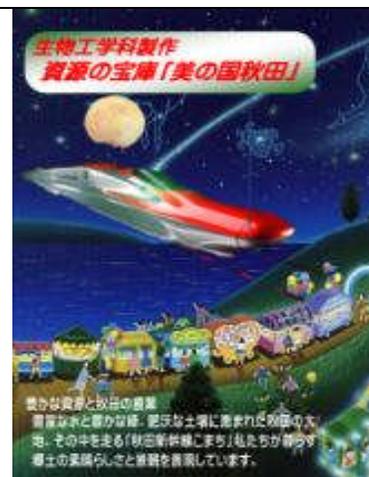
10月27日(日)の大農祭に向けて製品作りを頑張っています。大農伝統のぶどう液「キャンベル」を製造中です。クエン酸が夏ばて解消のお手伝い、氷を入れてご賞味下さい。イチゴジャム・ブドウジャム・ブルーベリージャムを販売しております。冷たいアイスクリーム、ヨーグルトとの相性は絶品です。大農のお米、地元産大豆で熟成させた「大農味噌」は県外の卒業生の超人気製品です。日本の伝統食品はふるさとの香り・味をお届けします。



生物工学部門 (照井豊和先生、平塚祥広先生、大沼克彦先生、佐藤潤之介先生、)

朝晩が随分と冷え込み、温室内も暖房が焚かれる季節になりました。朝晩の冷気に触れたランはその後の温かさで花芽をつけ、年明けから盛んな開花を見せることになります。

大仙市内の田畑は稲刈りも終わり、農閑期に近づきつつありますが温室の洋ランはこれからが本番となります。現在は種苗交換会と大農祭へ向けてディスプレイを計画中です。ぜひご覧ください。洋ラン栽培で分からない事や聞きたいことがあれば気軽にお問い合わせください。



大家畜部門 (担当者：今藤暁子先生、高橋恵二先生)

実りの秋です。牛たちも実りが判明しました。育成牛の「さくらこ」と「なぎさ」の妊娠が確定しました。肉牛の妊娠期間は285日なので、来年の5月上旬(さくらこ)、5月下旬(なぎさ)に出産予定となります。

成牛の「りん」は、7月に分娩し、今月人工授精しました。子牛の「こまち」は獣医さんも驚くほど大きく成長したので、予定より一ヶ月早く離乳しました。母のお乳が恋しくて何日も声を枯らせて鳴き続けています。しかし、母牛はあまり気にする様子もなく餌を食べている状態です。

寒さに強い牛ですが、コンクリートの畜舎はかなり冷え込むので、腹を冷やさないように管理していきたいと思います。

中家畜部門 (担当者：守屋拓先生、小林和成先生)

現在、子豚は6月2日生まれが13頭、6月9日生まれが10頭います。

11月下旬出荷予定でしたが、今月末にも出荷になりそうです。2年生の課題研究で毎週体重を計測し、記録しています。それによると、一週間遅く生まれた10頭の方がよく成長していることがわかりました。この謎を解き明かすために2年生は頑張っています！

小家畜部門 (担当者：田口健一先生、高橋恵二先生)

10月16日をもって、今年度の農産物販売所が終了しました。たくさんのお客様に卵をお買い上げいただき、本当にありがとうございました。来る10月27日の大農祭でも卵の販売を行いますので、その際はよろしくお願ひします。

最近めっきり日が短くなってきました。日長の長さは産卵に大きな影響を及ぼすので、これからの季節は鶏舎内の照明を点灯させて、産卵率を落とさないよう工夫しています。